

【報告】

・【第12回 CIEC サタデーカフェ】

テーマ：GIGA スクール構想の現場より／GIGA スクール構想の現状と課題・今後について

開催日：2022年5月21日(土)20:00-21:00

開催形態：ZOOM によるオンライン開催

主催：小中高部会

・【第13回 CIEC サタデーカフェ】

テーマ：情報科 新カリキュラムについて

開催日：2022年6月18日(土)20:00-21:00

開催形態：ZOOM によるオンライン開催

主催：小中高部会

・【第14回 CIEC サタデーカフェ】

テーマ：教育用データの取得とその効果的な活用について ～主体的に学習に取り組む態度を中心に据えて～

開催日：2022年7月16日(土)20:00-21:00

開催形態：ZOOM によるオンライン開催

主催：小中高部会

・【2022PC カンファレンス】

テーマ：学びのアタリマエを揺さぶる

開催日：2022年8月11日(木)・12日(金)・13日(土)

開催形態：ZOOM によるオンライン開催

公式サイト：<https://conference.ciec.or.jp/2022pcc/>

【第12回 CIEC サタデーカフェ】

【開催概要】

開催日：2022年5月21日(土)20:00-21:00

スピーカー：大橋剛氏（札幌市立大谷地小学校）

テーマ：GIGA スクール構想の現場より／GIGA スクール構想の現状と課題・今後について

会場：Zoom によるオンライン開催

プログラム：20:00-20:15 【話題提供】

20:15-21:00 【フロアとのフリーディスカッション】

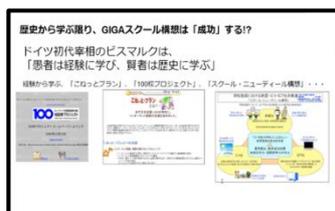


第12回 CIEC サタデーカフェは「GIGA スクール構想の現場より／GIGA スクール構想の現状と課題・今後について」をテーマに札幌市立大谷地小学校の大橋剛氏による話題提供となりました。大谷地小学校では、1人1台環境になる以前は、タブレットが1台もなく、起動に時間のかかるPCを使用していたという、いわゆるICT環境については脆弱そのものだったそうです。そこへ急激な変化が訪れました。札幌市立の学校では一斉にChromebookの導入があり、基本的にGoogle Workspaceを利用しています。子どもたちは各学年に応じた活動でこれらの機器を利用して、1年生ではまずログインを覚えるところから始まり、2年生では学習規律の徹底を行いながら、3年生ではすでにプログラミングの学習を行っています。また4年生ではテキストマイニングツールを使い、5年生では雲の動きをカメラで記録し、レポートをまとめる作業に使用しています。さらに、6年生では卒業文集作りやオンラインでの保護者修学旅行説明会を行ったそうです。Google サービスの利用では、Google Meet や Google Classroom を活

用し、Jamboard を使った協働学習も行っています。校内では GIGA 校内成果発表会やオンライン参観・懇談も行い、日常的に持ち帰りを推奨し、ほぼ全家庭で Wi-Fi 環境が整っているそうです。その甲斐もあって、児童の 96%、保護者の 85% が 1 人 1 台環境であることを実感しており、あらゆる教育活動の基盤になっています。また教員研修も充実し、管理職も積極的に利用している姿が見られるそうです。導入当初は課題も多く、依然として、地域間・学校間などの格差はあるようですが、個人間格差については縮まっていると感じられるらしく、インターネットの回線状況も安定してきていると大橋氏から報告がありました。今後は健康面の問題も出てきそうですが、現在のところ大きな問題は生じていないようです。さらに予想以上に端末の故障も少ないようで、1 人 1 人の児童が Chromebook を大切に扱っていることが伺えます。管理者の業務としては、アカウントの年度更新が煩わしく、業務量もかなり大きいようです。最後に、これらのまとめとして、『「学び」は変わったのか?』、「学びの質と学びの内容の転換ははかれたのか?」という問題提起がなされ、その上で、「歴史から学ぶ限り、GIGA スクール構想は成功する。」という言葉で締めくくられました。

この後の参加者とのディスカッションでは、まず小学校低学年での有効性について質問があり、音楽での Chrome Music lab の利用や Viscuit (ビスケット) でのプログラミングなどを通じて、子どもたちは想像以上にすぐにできているという紹介がありました。また小中連携についての質問では、中学校区(近隣の小学校 3~4 校+中学校 1 校)において、GIGA スクール構想の話題も含め、密に連携を行っているそうです。各小学校から集まって来た中学生は、互いに身につけたスキルも異なり、そこで教え合いが起こっているそうです。さらに進学時のアカウントの継続性についての質問もありましたが、これについてはまだできておらず、今後の大きな課題だということでした。最後に、小中高大の連携や接続についての話題となり、質や内容の転換を行っていくためにも、各校種が互いに理解しながら繋がり、体系的に教育活動に取り組めるシステム作りが大切であるというまとめで終了しました。

13 名の参加で、少人数ではありましたが、小学校現場での実情をお聞きできる貴重な機会となりました。今回の話題提供者である大橋氏を始め、ご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。
(文責：平田義隆)



【第 13 回 CIEC サタデーカフェ】

【開催概要】

開催日：2022 年 6 月 18 日(土)20:00-21:00

会場：Zoom によるオンライン開催

プログラム

20:00-20:15 【話題提供】

スピーカー：柴田直美氏（日本女子大学附属高等学校）

テーマ：情報科 新カリキュラムについて

20:15-21:00 【フロアとのフリーディスカッション】

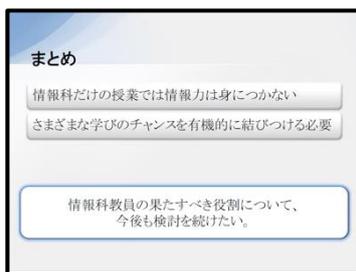


第 13 回 CIEC サタデーカフェは「情報科 新カリキュラムについて」をテーマに日本女子大学附属高等学校の柴田直美氏による話題提供となりました。日本女子大学附属高校では、「自ら考え、自ら学び、自ら行う」という教育理念のもと、日々の教育活動に取り組んでおられ、柴田氏は学校が情報化されていく中、それに関わり授業を運営しておられたようです。20 年前に情報科が必修となったとき、学校として、学習者中心の授業にすることを重視し、主体的な活動を活性化する場合や、学校内にとどまらず、より広い学習の場の提供を行うことを教員全体で確認するところからスタートしておられます。また、基本的な考えとして、情報科の授業を情報科の中だけで終わらせず、学校生活の中にある様々な学びの場と連携をし、教員同士の連携・協働の推進も活発に行っておられます。旧カリキュラムでは、1 年生で情報科を 1 単位、情報連携授業を各学年で 1 単位、高校 3 年生で選択授業 2 単位の設定がありました。新カリキュラムでもそれらを踏襲しておられますが、3 年生の選択授業に情報Ⅱが入っていることで、早期に情報Ⅰを終わるようにしているようです。1 年生では、情報リテラシーからプレゼンテーション、データの活用の基礎、プログラミング等をバランスよく行っておられます。また、情報連携授業では、各教科担当者からテーマを出してもらい、TeamTeaching の形で授業を進められています。データの活用、シミュレーション、モデル化、情報デザイン等を取り扱い、情報科で学んだことが他教科で発展的に生かされるようにカリキュラムを工夫しています。その中でも、特に力を入れておられるのが、データを読み取り分析する力を育てる授業、社会とのつながりを意識した授業です。例えば、地理に関するデータの可視化や、化学連携での凝固点降下の実験など、生の情報に関わる体験を重視しています。柴田氏は最後に、「情報科だけの授業では情報力は身につかない。様々な学びのチャンスを有機的に結びつける必要があると考えている。情報科教員の果たすべき役割について今後も検討を続けたいと思っている。」と締めくくられました。

この後の参加者とのディスカッションでは、そもそも授業時間が足りているかとの質問が出され、新カリの情報Ⅰは教科書のボリュームも大きくなっている中で、それに苦心しているが、なんとかなっていると回答されました。また、中学校との連携の質問については、なかなかできておらず今後の課題だということでした。また BI ツールの利用の質問については、今後取り入れたいと考えているという回答でした。さらに探究学習についての質問が出され、そういった取り組みは、総合学習の時代から活発であるが、情報科が前面に立っているわけではなく学校全体で取り組んでいるそうです。LMS などの活用も含め、本格的な高大連携につなげて行ければと話されました。

参加は 11 名と少なめではありましたが、大変中身の濃

いサタデーカフェになりました。あちこちの参加者から、教員同士が授業の運営や授業内容など様々な点でしっかり交流できていることが、大変羨ましいという発言が目立ちました。柴田氏も、サステナブルにやっていくことを目指していて、打ち上げ花火になってはいけないと考えておられ、いろいろな人を訪ねてみたり聞き回ってみたりしているとおっしゃられ、情報科がすべての教科教育の土台になっていることが大切であるという素晴らしいお話でした。今回の話題提供者である柴田氏を始め、ご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。(文責：平田義隆)



【第14回 CIEC サタデーカフェ】

【開催概要】

開催日：2022年7月16日(土) 20:00-21:00

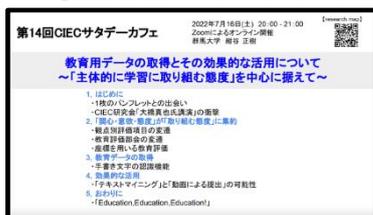
会場：Zoomによるオンライン開催

プログラム：20:00-20:15【話題提供】

スピーカー：紺谷正樹氏(群馬大学)

テーマ：教育用データの取得とその効果的な活用について～主体的に学習に取り組む態度を中心に据えて～

20:15-21:00【参加者とのフリーディスカッション】



第14回 CIEC サタデーカフェは「教育用データの取得とその効果的な活用について～主体的に学習に取り組む態度を中心に据えて～」をテーマに群馬大学の紺谷正樹氏による話題提供となりました。

紺谷氏は一昨年度まで中学校の技術科教員をされており、実際、教育現場で評価に関わってこられた経歴をお持ちです。紺谷氏はまず、「学習評価の在り方ハンドブック」(文部科学省発行)に触れ、そこに掲載の「主体的に学習に取り組む態度」で示されている2次元での評価イメージ(図1)や、個人内評価を評定に入れないことの明示などを通して、教育評価についての研究が進んでいると感じられたようです。

また CIEC 主催のデータサイエンス研究会にも参加され、テキストマイニングが効果的に利用できることも実感されたようです。これまで10年ごとに改訂されてきた学習指導要領における評価の観点についても、「関心・意欲・態度」であったものが今改訂では「主体的に学習に取り組む態度」と集約され、この評価が難しいですが、図1のように2次

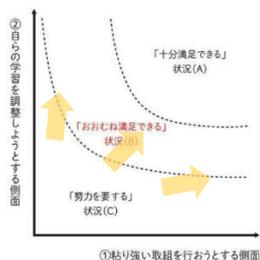


図1. 「主体的に学習に取り組む」

元で表すことで、子どもたちが次にどのようにすれば成績が良くなるのかわかりやすく示されているようです。ご自身はこれまで、単純に各観点での評価を足し算することで成績を付けておられたそうですが、現在ではそうではない方法を考えられており、中でもテキストマイニングによる評価を検討されています。子どもたちもローマ字入力だけでなく、トグル打ちやペン入力など「学習の個性化」に相当する入力方法を行っており、教師側も「指導の個性化」として入力装置について議論を深めることも必要であるとおっしゃいます。最後に、こういった教育問題が世の中の議論になるように頑張っていきたいという言葉で話題提供を締めくくられました。

この後、参加者の皆さんでディカッションとなりました。中学校現場時代の評価で大切にしていたことに対する質問があり、当時から評定が受験に利用されることに悩んでおり、一見、数字での評価は客観性があるように見えるが、それよりも大切なのは合意性だと感じているというお答えで、そういった議論が今後なされるべきだと考えておられるようです。また情報科などで観点別評価を積極的に取り入れている先生からは、教科によって評価の方法が異なり、平面的な評価方法も有用なのではという話があり、文部科学省のメクビット(MEXCBT)の開発が進んでくればできるようになることも多く、それに期待したいという話もありました。さらにこれからは複数人数で評価していく時代になるのではという話も出され、そもそも点数による評価に限界がきている点や、他者との比較での評価でなく、絶対的な評価が浸透してほしいなどの意見も出されました。保護者には5段階等の評価の方が説得力があるようですが、国の指針として新しい評価に変わっていくところ、周りのツールやソフトなども開発され、そういった議論がようやくできるようになってきているという話で今回のサタデーカフェは終了しました。

今回は11名の参加で、大変有意義な時間を過ごしました。終了後の話で、「教育評価についての議論は、教育内容や教育方法の議論よりも少ないことが大きな課題で、今後、ICT活用の次のステージに教育評価があると思っています。」とおっしゃったのが印象的でした。今回の話題提供者である紺谷氏を始め、ご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。(文責：平田義隆)

2. 「関心・意欲・態度」が「主体的に学習に取り組む態度」に集約される観点別評価項目の変遷		
平成10年公示	平成20年公示	平成29年公示
『関心・意欲・態度』 『思考・判断・表現』 『技能・活動』 『知識・理解』	『関心・意欲・態度』 『思考・判断・表現』 『技能・活動』 『知識・理解』	『知識・技能』 『思考・判断・表現』 『主体的に学習に取り組む態度』 『知識・理解』

【小学学習指導要領(平成29年告示)解説 平成29年7月 総論的項目1 中後より転載】

【2022 PCカンファレンス】

【開催報告】

「2022PCカンファレンス」は新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、会場をつくば国際会議場から急遽オンライン開催に変更し開催いたしました。

企業によるブース出展(「教育・ITフェア」)など一部企画が中止となりましたが約300名の参加により、基調講演、シンポジウム、セミナー、分科会報告などを通じて互いに学び、交流を深めることができました。

(1) 開催日程

2022年8月11日(木)・12日(金)・13日(土)

(2) 会場

オンライン(コロナ感染拡大によりつくば国際会議場から

変更)

(3) 全体テーマ

「学びのアタリマエを揺さぶる」

(4) 公式サイト

<https://conference.ciec.or.jp/2022pcc/>

(5) 参加費

一般 (CIEC 会員・全国大学生協連に加盟する会員生協の組合員) 5,000 円 /

一般 (非会員) 7,000 円 / 学生 2,000 円 / U-18 発表者・その指導教員 1,000 円 /

U-18 参加者 無料 ※「団体会員発表セッション」は参加費無料

(6) 参加者

300 名 (当日参加者を含む)

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
8月11日 (木)				全体会 基調講演 12:00-13:00	シンポジウム 13:30-15:15		CIEC団体会員 発表セッション 15:30-17:00		イブニングセッション CIEC Online Cafe 17:30-19:00		
8月12日 (金)		分科会 9:30-12:25			ポスターセッション 12:35-14:35		分科会 14:50-17:15		CIEC総会 17:30-19:00		
8月13日 (土)		分科会 9:30-11:55			セミナー2 12:20-14:00		セミナー3 14:15-16:10				
							セミナー4 14:15-16:10				

(7) 企画概要

<全体会>8月11日 (木) 12:00~12:10

開催挨拶: 若林靖永 (佛教大学・CIEC 会長理事)

主催者挨拶: 中森一朗 (大学生協連専務理事)

司会: 中村泰之 (名古屋大学・CIEC 事務局長)

<基調講演>8月11日 (木) 12:10~13:00

タイトル: 「学校と正反対の学びの場を作ってみたら」

講演者: 中邑 賢龍 (東京大学先端科学技術研究センター
シニアリサーチフェロー)

<シンポジウム>8月11日 (木) 13:30~15:15

タイトル: 「教育のリセット」

パネリスト: 中邑 賢龍 (東京大学先端科学技術研究センター
シニアリサーチフェロー)

若林靖永 (佛教大学・CIEC 会長理事)

森棟隆一 (白百合学園中学高等学校)

司会: 興治文子 (東京理科大学教育支援機構教職教育センター)

<分科会>8月12日 (金)・8月13日 (土)

口頭発表: (一般・学生): 53 本・(U-18) 12 本

ポスター発表: 21 本

<セミナー>8月13日 (土)

12:20~14:00

タイトル: 「CIEC 会誌『コンピュータ&エデュケーション』に採択されるために -APA Publication Manual に学ぶ論文の書き方」

パネリスト: 寺尾敦

14:15~16:10

タイトル: 「望ましい情報 I のあり方 ~大学入試共通テスト「情報」を見据えて~」

パネリスト: 武沢護 (早稲田大学高等学院長)

中野由章 (工学院大学附属中学校・高等学校長)

司会: 平田義隆 (京都女子中学校高等学校・CIEC 小中高部会)

14:15~16:10

タイトル: 「コロナ前・コロナ下・コロナ後で大学生の学びへの考え方の変化はあったのか?」

パネリスト: 毛利 貴 (早稲田大学人間科学部 4 年)

卯田 寿里 (千葉大学理学部地球科学科 4 年)

中野 駿 (名古屋大学理学部数理学科 4 年)

ファシリテーター: 小野田 哲弥 (産業能率大学 情報マネジメント学部 教授)

司会: 有馬 光星 (東京医科歯科大学生活協同組合職員・CIEC 生協職員部会)

<イブニングセッション>

「対面時も使えるフォームを利用したオンラインテストの活用」

主催者: 小川 健 (専修大学 経済学部)

「教え手と作り手の交流から考える望まれる電子教科書ビューアとは」

主催者: 秋田 智之 (大学生協事業連合 DECS 事業推進課)

「表面実装部品で作る電子工作ワークショップ」

主催者: 鳥居 隆司 (相山女学園大学 文化情報学部)

<CIEC Online Café>

基調講演、シンポジウムの内容をテーマに、oVice/オヴィスを使用した場を提供

<CIEC 団体会員発表セッション>

15:30 - 15:45 株式会社オデッセイコミュニケーションズ

15:48 - 16:03 株式会社ワークアカデミー noa 出版

16:06 - 16:21 株式会社ナレロー

16:24 - 16:39 株式会社 TRYWARP

16:40 - 17:30 意見交換&名刺交換(ブレイクアウトルーム)